



広島中央トピックス

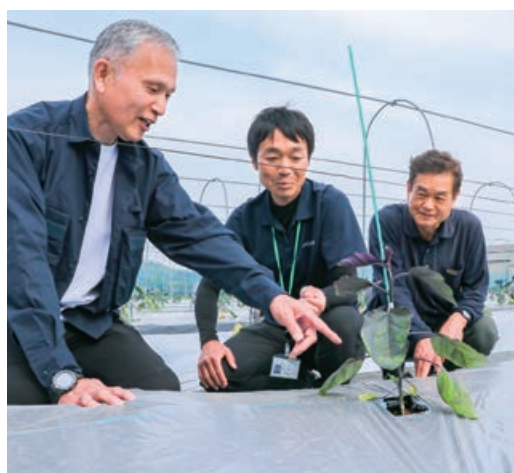
ナス拡大に栽培塾 レベルアップへ情報共有



JAは5月24日、福富アグリセンターで2024年度第1回広島中央地域露地夏秋ナス栽培塾を開きました。同地域管内外の生産者や営農指導員、行政関係者ら17人が参加。主要園芸品目の一つであるナスの生産振興を目的に、地域間の情報共有や営農担当者のスキルアップなどを目指します。

同塾では、JA営農支援課の橋本孟治係長が、ナスの品種や特徴、栽培概況を説明。14aの露地夏秋ナスの圃場を見学し、株間や誘引などの栽培方法などについて情報を共有しました。

廿日市市の8aで大長ナスを栽培する阿部勝也さんは、「他地域の講習会にも参加し、様々な栽培方法を学びたい」と話しました。



▲ナスの生育を説明する橋本係長(中)と生産者

学ぼう食と農のつながり

～ 農業体験! ～

JAは、地域の農家と連携し、食と農の大切さを伝える食農教育活動に取り組んでいます。今年も各地で田植え体験が行なわれました。農業体験を通じ、子どもたちの農業の関心もすくすくと育っています。



ご協力していただいたみなさん、
ありがとうございました

造賀小学校・寺西小学校・豊栄小学校・三永小学校・
乃美尾小学校・農家の皆さん



水稲

令和6年産の生育について

令和6年産は、春先の田植えまで降雨が続いたため、耕起が十分できず、稲わらなどの有機物が分解しなかったことで田植え後、ガス沸きによる生理障害を起こした田が多かったようです。

未熟な有機物が多く残った田では、還元状態（酸素が不足した状態）が続くため、根が張らず、生育が阻害され、分けつ数も不足します。

今後は少しでも生育を回復させるために間断灌漑を継続しましょう。水稲の生育後期は土壌水分があれば十分ですので、節水管理が基本となります。特に今年のような状態であれば、水を溜めっぱなしにしないよう注意してください。

また、日射量が多かったため、アオミドリ口などの藻類も多発しました。稲が幼い時に藻が絡んで水没した場合、株がとれたように腐って無くなり、大幅な減収になります。藻が多発すると除草剤の効果も広がらず、ヒエなどの発生原因にもなります。藻類が多発する田は毎年のように発生するので、初期除草剤は藻に効果がある薬剤「農将軍」などを選択するようにしましょう。

カメムシ類の発生について

冬の気温が高めに推移したことで、耕作放棄地が増えたこと、畦畔を燃やすことが少なくなった影響により、今年は早くからカメムシ類の被害が懸念されています。

特に近年は「イネカメムシ」の発生が心配されます。このカメムシは数年前までは発生が極端に少なかったのでは絶滅したものと考えられていました。ところが、5年前くらいから、広島県の南部のごく一部に発生が見られ、昨年度は福富町でも確認されました。生育域は徐々に広がっています。一般的なカメムシは粉の養分を吸汁するため、斑点米になります。

が、この「イネカメムシ」は粉だけでなく、茎の養分も吸汁します。名のとおり稲を好むため、田に集中的に発生し、養分を吸い取ります。激発地では稲の生育が著しく衰え、粉が不稔となり、収穫は皆無になるところも一部でありました。

このカメムシの特徴は盾形で硬い甲羽を持つため、見分けるのは容易です。生育域を把握するためにも疑わしい場合、必ず最寄りのアグリセンターにご連絡ください。

また、従来から発生しているカメムシ類はヒエの種子を好みまです。田にヒエがあると、それを見て飛来してきます。予めヒエの対策をしていないと、いくら本田防除を徹底しても効果は半減です。



▲イネカメムシ

稲こうじ病

昔は「稲こうじ」が発生すると豊作だと言われていましたが、農産物検査では「稲こうじ」は異物扱いになります。等級低下ばかりでなく、混入割合が多いと規格外になります。カビの一種で発生するのはどちらかといえば風通しが悪く、半日陰のところに発生することが多いです。稲の隙間から菌糸が進出し、粉全体に菌が蔓延して病粒となります。薬剤での対策ではボルドー液剤を出穂前20〜10日前、モンガリット粒剤では出穂前21〜14日前に散布するようにしましょう。また、土壌条件を整えるためにもミネラルGなどを秋に施用しましょう。

いもち病

今年は昼夜の温度差があり、特に朝晩の気温が低めに推移しています。「いもち病」は比較的低温基調な年に多発しますので今年は注意が必要です。特に出穂期以降での発生は大幅な減収につながります。肥料が遅くまで効き、葉色が濃い田は重点的に見回り、葉に病斑が見られる場合は「ブラシン」などの薬剤を散布しましょう。

野菜

夏野菜の管理・収穫

◆カボチャの収穫について

春に植え付けたカボチャも早いものは7月下旬から収穫適期を迎えます。未熟なものは甘味がのっていないので適期の収穫を心掛けましょう。

適期判断は、果皮の状態を確認するのが最も良いです。未熟なものは果面に幼果特徴の毛が残る、色も淡く、凹凸がありません。適熟のものは果皮の色が濃くなり、凹凸が発生し、品種の特徴（カタログや種の袋を確認してください）が表れます。

収穫後は、涼しい場所に広げ、ヘタが乾くまで10日程度、乾燥させます。傷や打ち身があるものは早く痛みますので、取り扱いには注意し、早めに食べるようにしましょう。



◆果菜類の管理について

ピーマンやナスなどのナス科の果菜類を長く楽しむためには、樹勢を衰えさせないことです。追肥は量をたくさんよりも、少量でも細かく（1週間に1回程度）与えるようにします。長い間、果実を樹につけておくと、樹勢が極端に落ちるので早めに収穫し、取り残しのないようにしましょう。

また、下の方にある古い葉や込み合う枝をこまめに取り除き、すっきりとした形に仕上げれば病気の発生が少なくてすみます。

雨が長く降らないとアブラムシやハダニの発生が多くなります。このような小さな虫類は雨に当たるとその一部は流れ落ちて死んでしまします。同じ道理で水やりをするとき、樹全体にシャワーするとそれらの個体数が減りますので特に家庭菜園の場合、試してみてください。

◆夏まきキュウリについて

春に定植したキュウリも収穫後半になり樹も衰えてきているところだと思えます。7月に種をまく「夏まきキュウリ」は育苗期間も短く、比較的容易に栽培することができます。キュウリは消費量の

多い野菜ですので1株を長く楽しむより、種まきの時期をずらすことで株を更新しながら長く楽しむようにしましょう。その方が品質の良いものが収穫できます。

キュウリの根は他の野菜に比べ浅く広がり、また酸素を多く必要とします。そのため、植え付ける畑は事前に排水対策を行なっておきましょう。また、高温時での定植になるので植え付けは夕方に行ない、活着まではこまめに水やりをし、しおれさせないようにします。

キュウリの果実には水分が多く含まれています。曲がり果や尻細果などは水分の不足によって発生します。特に収穫が始まれば2〜3日間隔で灌水するようにしましょう。



◆秋の畑の準備

夏野菜の収穫が本格的に始まる時期ですが、秋の畑の準備は早めに行なっておきましょう。

特に秋作は作業が1週間遅れると収穫が1カ月遅れるといわれます。まずは排水対策と堆肥の施用による土づくりで「ミネラルG」を石灰の代わりに使用するとPHの調整だけでなく鉄分やケイ酸分の補給になるのでお勧めします。



◆カキノヘタムシガ

カキノヘタを残して落果させるため「ヘタムシ」といいます。発生は5月下旬から6月、7月下旬から9月までの年2回発生します。1回目に被害を受けたところは2回目の発生で著しい被害となりますので、「ジェイエース水溶剤」や「パダンSG水溶剤」などの殺虫剤を散布するようにしてください。

ご愛読者の皆様へ 新聞購読料 改定のお知らせ

新聞用紙、制作費の高騰により、読者の皆さまには大変心苦しい限りですが、令和6年8月1日から下記の月額購読料に改定させていただきます。今後もより一層、読者の皆さまにご満足いただける紙面をお届けします。

※全て月額、税込み。

対象サービス	改定前	改定後(8月以降)
紙版	2,623円	➡ 3,100円
紙版・電子版 併読	3,723円	➡ 4,200円
電子版	料金据え置き	2,403円

日本農業新聞

農業新聞購読料改定・ 電子版のお知らせ

日本農業新聞 電子版

機能と使い方



新聞よりお得!!
月額料金 **2,403円** (税込)

電子版でできること

- 📱 スマホ、タブレットで
- 🔍 過去記事検索が30日分
- 💾 最大200件記事を保存
- 📡 net アグリ市況に即アクセス



- 📊 300品目の取り扱い
- 📈 長期的な市況
- 📊 備決めの基準に

紙面ビューアーの特長

- 📖 読みやすさ、紙面のまま
- 🔍 文字の拡大・縮小
- 📖 全ての地方版が読める



電子版のお問い合わせやお申込みは、お近くのJA窓口にご相談ください。

農機センター農繁期休日営業と 盆休業のお知らせ

広島中央農機センターは、秋の農繁期に、土・日・祝日の休日営業を実施します。

【農繁期休日営業 実施期間】

8月17日(土)～10月27日(日)

また、次の期間を盆休業とさせていただきます。ご不便をお掛けしますが、よろしくお願いします。

【休業期間】**8月10日(土)～16日(金)**

農業機械大展示会のお知らせ

【開催日時】

7月26日(金) AM9:00～PM3:00

27日(土) AM9:00～PM2:30

【会場】

JA全農ひろしま・広島営農技術センター
(東広島市河内町入野11631-13)

【問い合わせ】

広島中央農機センター Tel.082-430-2300

0210-162-315

東広島市
園芸センターより

環境制御装置導入支援事業をご紹介します

園芸センターでは、近年の変動の激しい気候の中、農作物の安定生産や省力化などが期待できる環境制御技術の普及を図っています。これは、栽培施設に温度や湿度、土壌水分、二酸化炭素などのセンサーを取り付けて作物が最適に育つよう自動でかん水やカーテンの開閉などを行なうものです。

環境制御装置の導入を検討していただけるよう、次の補助事業を紹介します。

申込・問い合わせ

東広島市園芸センター Tel. 082-433-4411

【事業名】環境制御装置導入支援事業

【対象者】園芸作物出荷販売農業者

【補助率・限度額】補助対象経費の1/2、上限100万円

【補助内容】

- ① 自動制御に必要な測定センサー（温度、湿度、水分、二酸化炭素、日射）
 - ② ①で感知した環境を自動制御する器具（換気、温度調整、灌水、施肥、日射制御）
 - ③ センサー及び器具の制御盤
- ※ ①②③いずれか単体の導入でも可
※ ビニールやパイプ等の消耗資材は対象外